

(5) 誰もが使いやすいインターフェースの実装

地域社会においてICTの利活用を促進させるためには、使いやすいインターフェースを実装することが望まれる。

ア 南砺市の事例

南砺市のタッチパネル式PDP（プラズマディスプレイ）は、指一本だけで直感的に情報にたどり着く工夫が施されている。また、個人情報などの入力操作が必要な場合には、ICカード（住基カード）をかざすだけで認証・入力が終了するなどの簡易性も備えている。

[南砺市 ICカードリーダーとICカード]



イ 敦賀市の事例

敦賀市の「なんでもテレビ」は、地元のCATV局がサービスしているデータ放送サービスであり、STB経由で地域密着の情報がリモコンの操作のみで簡易に取得できる仕組みとなっている。

「なんでもテレビ」は、テレビを「見る」テレビから「参加する」テレビへと変容させている。携帯電話で写真を撮ってメールを送るとテレビで放送されたり、地域のフリーマーケット出店商品や回覧版などがテレビで閲覧することが可能となっており、専門的な知識が無くとも個人が容易に情報受発信できる「利用者情報受発信型テレビメディア」ともなっている。

[敦賀市 STBとリモコン]



[敦賀市 なんでもテレビ]

所属するコミュニティに新着情報が入ると、本線放送にテロップが流れ（左図）、データ放送（右図）へと導く。

ウ 横須賀市の事例

横須賀市の緊急通報システムも使いやすさに独自の工夫を加えている。

ペンダントに装着されたボタンを押すだけで緊急情報を簡易に発信できる仕組みとなっており、高齢者の方でも直感的に緊急通報が可能となっている。

[横須賀市 緊急通報装置とペンダント型ボタン]



ハンズフリーで会話が可能となっており、高齢者にとって親和性が高い。